

平成29年度 北海道地域評議会

1. 開催日時・会場

平成30年2月28日（水） 9時30分～11時30分
森林総合研究所北海道支所 大会議室

2. 評議会委員

石原 聡 委員（北海道森林管理局森林整備部長）
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授）（欠席）
谷 一之 委員（下川町長）（欠席）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長、グループ長、地域連携推進室長、庶務課長
北海道育種場：育種場長、育種課長、遺伝資源管理課長、連絡調整課長、育種技術専門役

4. 評議会内容

1) 平成29年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を紹介した後、北海道支所と林木育種センター北海道育種場の組織、課題構成、資金、連携橋渡し状況、行事及び広報活動についてそれぞれ説明を行った。

2) 北海道支所研究紹介

- ①「森林の炭素吸収量の長期モニタリングが明らかにする攪乱影響」
- ②「農地から森林への土地利用変化に伴う土壌炭素蓄積変化の解明」

3) 北海道育種場業務紹介

「特定母樹の普及に向けた取組」

5. 評議会委員からのコメント・助言

- ・北海道は特に豊富な森林資源をもっている。現在主伐期を迎えており、伐採後の再造林も必要になっている。林業の成長産業化につながる研究が必要である。また、有用広葉樹の活用も求められており、省力化のためにも天然林の力を活かした施業の研究をひきつづきお願いしたい。
- ・育種及び育種種苗の普及によく取り組んでいることを理解した。主伐期を迎え、再造林が必要に迫られており、材価は固定され造林補助金も限りがある中で、初期の育林コストの抑制のためにも、下刈りの回数の省力化に繋がる初期成長の早いもの、さらに将来収穫期にあつては材質の良いものが求められていて、育種は重要と認識している。カラマツ類のほか、成長の遅いトドマツ・アカエゾマツについても積極的にエリートツリーの開発と普及を期待している。

- ・炭素収支の研究は日本政府が世界に約束した温暖化対策につながる研究であり、これまで以上に取り組んでほしい。また、まだ知らない人も多いので、情報発信に努めてほしい。